

高性能林業機械にかかる保安基準の見直し等について

● 経緯

○規制改革実施計画（令和4年6月7日閣議決定）において、ホイール型林業機械の導入促進のため、国土交通省は、

- ①新たなカテゴリーの設定を含めた道路運送車両法体系における当該林業機械の位置付け等について検討する
- ②灯火器等の着脱、車両の高さや重量、輸送物などの当該林業機械の特性を踏まえつつ、公道走行を実現するための保安基準等の見直しを行うとされた。

● 改正概要

- ①令和4年度「高性能林業機械の導入促進に向けた調査事業 報告書」（林野庁）において、ホイール型林業機械は、寸法や重量が大きく、また、欧州における産業機器・車両全般の公道走行時の事故の原因として、視界不良や整備不良が挙げられていること等を踏まえ、ホイール型林業機械は、引き続き、大型特殊自動車として取り扱うこととする。
- ②ホイール型に限らず、林業機械が該当し得る大型特殊自動車及び小型特殊自動車に備える灯火器及び後写鏡にあっては、公道走行における安全性を確保しつつ、林野作業に対応できるよう、運行時に取付けが必要である旨を運転者が運転者席において容易に識別できるように表示すること等を条件として、脱着式とすることができるものとする。

● 改正時期(予定)： 2025年6月

(参考) 令和4年度「高性能林業機械の導入促進に向けた調査事業 報告書」(林野庁)(抜粋)

(1) ホイール型林業機械のタイプ

海外動向：50頁参照

- 本報告書では、ヒアリング調査等で聞き取った国内に導入されているホイール型林業機械を下記の2種類に整理し、記述する。
- 現在主流の機械は、1990年代に使用されていたものに比べ、ホイール径が大きくなり走行性が向上している。

A. 海外製を中心とした大型ハーベスタ、フォワーダ

- ・出力が大きくパワフルで、ハーベスタでは林内作業（乗り越え性能）、フォワーダはスピードに優位性がある。
- ・車高、車幅等のサイズが大きく、幅広の林道が必要。

(例) GREMO 1050F4
長さ：8.925m 幅：2.75m
高さ：3.66m 重さ：12.5t



※ホイールにチェーンやバンド等を履かせることで、登坂性が向上する

B. 海外製及び国内で近年製造された小型ハーベスタ、フォワーダ

- ・出力は大型機械（タイプA）に劣るが、クローラ型の日本の林業機械にサイズが近く、サイズ面の課題は少ない。
- ・建機ベースの国内製機械と比較して、スピードに優位性。

(例) IHI建機 F801
長さ：7m 幅：2.27m
高さ：2.27m 重さ：8.8t



※F801は、前輪がホイール、後輪がクローラ

ホイール（＝タイヤ）

クローラ（＝カタピラ）